

1. 7 保存システムについて

筑波大学副学長
富江伸治

はじめに

*1 保存システムの検討項目

- ・保存スペースの狭隘化への対応と保存環境の整備
- ・資料の劣化対策
- ・メディアの多様化と電子資料の保存「印刷資料／電子資料」
- ・オンライン情報流通・情報資源共有化・利用のシステムとしての保存の在り方

*2 「保存」の概念（IFLA／国際図書館連盟「資料保存の原則」）

- ・保存（Preservation）：図書館・文書館資料およびそれに含まれる情報を保存するための保管、設備の整備、職員の専門性、政策、技術、方法を含むすべての運営面、財政面の考慮
- ・保護（Conservation）：図書館・文書館資料を劣化・損傷・消失から守るための個々の政策と実務で、技術系職員が考案した技術と方法を含む
- ・修復（Restoration）：経年・利用等により損傷した図書館・文書館資料を技術系職員が修補する際に用いる技術と判断

*3 保存問題の最近の動向

- ・1990年：国立国会図書館「第1回・資料保存シンポジウム」、同「第1回・資料保存フォーラム」が開催された。
- ・1993年：学術審議会学術情報分科会学術情報部会「大学図書館機能の強化・高度化の推進について（報告）」のなかで「図書館資料の効率的保存と利用」について述べられた。
- ・1994年：国立大学図書館協議会・資料の保存に関する調査研究班「資料の保存に関する調査研究－最終報告－」（6月）
- ・1994年：日本図書館協会「資料はいつまで利用できるか－資料保存ワークショップ－」（6月）
- ・1995年：兵庫県南部地震（1月）、資料のセキュリティーへの関心が高まる。
- ・1997年：国立国会図書館・納本制度調査会の発足（特に電子的な媒体の納入に関する制度及び運用の在り方について調査審議、3月）
- ・1999年：同調査会「答申 21世紀を展望した我が国の納本制度の在り方－電子出版物を中心に－」（2月）
- ・2000年：「国立国会図書館法の一部を改正する法律」の制定公布（4月）。
同法施行（10月1日）、同日以降発行のパッケージ系電子出版物が納本対象となり、民間出版物については「最良版の完全なもの」1部の納本が義務づけられた。（パッケージ系電子出版物とは、CD-ROM、DVD、ビデオカセットテープなどの有形の媒体に情報を固定した電子出版物）

1. 大学図書館における保存の現状と課題

- (1) 増え続ける資料の量と保存スペースの狭隘化への対応
- (2) 資料の劣化対策
- (3) オンラインネットワークの進展と資料・情報の利用と保存のシステム化
 - ・「使われなければ単なる倉庫、使えば知識の宝庫」（「知識の棺桶」 AERA'92.2.11）
 - ・印刷資料の有効利用のための資料の配置・保存の在り方
 - ・電子図書館化とオリジナル資料の保存

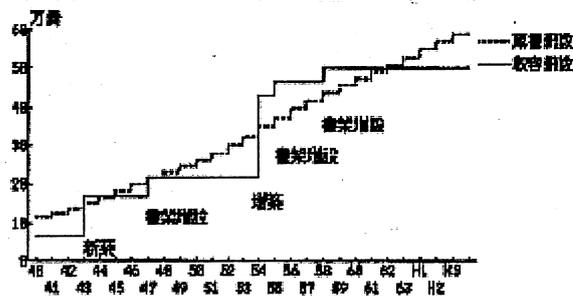


図1 書架収容可能冊数と蔵書数の推移（国立大学の1事例）

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

図1 書架収容可能冊数と蔵書数の推移（国立大学の1事例）

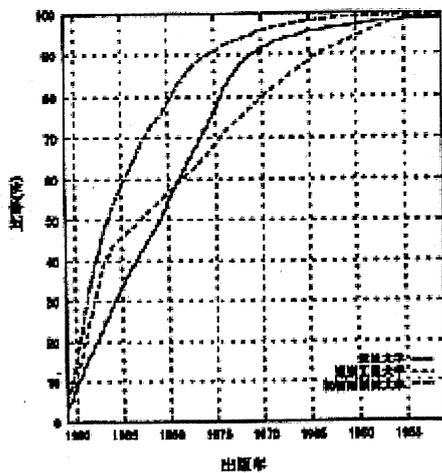
保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

2. 資料（紙）の劣化対策

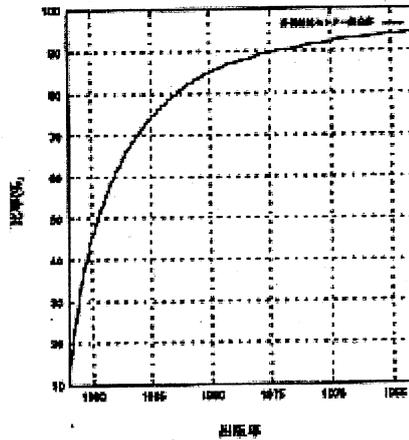
- (1) 劣化の原因と寿命
 - ・人為的要因（利用・業務による傷み／亡失・盗難・切り取り・複写による傷み等）
 - ・化学的要因（化学的変化）
 - ・生物的要因（微生物・昆虫等）
 - ・災害による損傷（火災・水害等）
 - ・促進要因（温湿度・光・大気汚染・ゴミ・ほこり）
- (2) 劣化資料の量
- (3) 劣化対策
 - ・大量脱酸技術の開発
 - ・中性紙使用の促進
 - ・メディアの転換（マイクロ化、電子メディア化 etc）
 - ・保存環境の改善

3. 紙メディア資料の保存のための手順

- (1) 資料の破損・忘失を防ぐ方策を講じる / 予防的手段
- (2) 保存すべき資料の範囲や限定を行い、保存方法、運用・組織などの基本的な考え方（ポリシー）を明確にし、資料保存のためのプログラム文書を作成する（「保存」→「保護」→「修復」← すべての資料を保存することはできない。
- (3) 一時的な保存資料の判定
 - ・ 文献年齢 / 利用の実績



【出版年別貸出件数の累積割合（3大学、1991年度）】



【外国雑誌センター館におけるILL利用件数】

図2 利用頻度からみた図書館資料の年齢

『図書館資料に関する調査報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より』

【出版年別貸出件数の累積割合（3大学、1991年度）】

【外国雑誌センター館におけるILL利用件数】

図2 利用頻度からみた図書館資料の年齢

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

- (4) 保存資料の具体的基準を定める [保存すべき資料/廃棄すべき資料]、そして不要となった資料の有効利用のための移管手続き等について定める。

cf. 基準設定の困難さ / 合意の得にくさ（利用に対する確率的な予想の問題）・規定類の未整備・手続きの煩雑さ・人手不足・他機関に保存されている保障の確認の困難さ

- (5) 保存の仕方の判定 [内容の保存か/現物の保存か]

- ・ 資料・情報の内容の価値 ← 利用頻度、引用頻度

- ・ 現物としての資料価値

歴史的価値（写本、初版本、1850年以前の本 etc）

現物としての価値（美術的・工芸的価値、希本・珍本）

著者の献辞・欄外書き込みなどの価値

(6) 保存資料の優先順位を決める

- ・内容の価値＋現物としての価値＋劣化の状態＋他機関での所蔵状況＋適切な保存方法の可能性 etc

(7) 保存のための保護処理の判定

- ・利用の状況＋資料の価値＋破損の状況（劣化の診断）＋修復の費用＋館の事情

(8) コストの見積／費用対効果を測る [原型保存か代替保存か]

- ・原型保存／製本、修理・修復
- ・置き換え・媒体変換／買い替え、複写・複製、マイクロ化、ニューメディア転換

(9) 保存場所と収蔵形式・配置

- ・個々の図書館のニーズ／大学全体の利用と保存のシステム／地域的・全国的な共同資料保存プログラムとの関係
- ・廃棄、再配置（保存部門への移転等）

(10) 利用のための措置 / 目録・レコードの再編成、資料・情報の流通システムの整備

(11) 保存環境の整備と維持

- ・保存施設（書庫）の環境整備
- ・保存容器等の使用（中性紙の保存箱、カバー etc）

4. メディアの多様化と電子資料の保存

(1) メディアの多様化と図書館

- ・在来型図書館／電子図書館／メディア・ミックス型図書館
- ・図書館資料（印刷資料＋電子資料）の利用形態
- ・図書館の存在意義

(2) 電子資料の利用と保存

- ・電子資料 [パッケージ系資料／ネットワーク系資料]
- ・電子資料の利用と保存対象 [メディアと再生機器]
- ・資料（内容）と再生機器の寿命
- ・「何を保存するのか」 [情報／資料／メディア]
- ・更新・変化への対応と保存 [オリジナルの保存／マイグレーション]

(3) 電子図書館化と資料の保存に伴う課題

- ・原本（original）の認証（authentication）や内容保証、所有や帰属の確認（著作権の問題を含む）、意図的な内容の改竄からの保護
- ・内容の改正・改版などの履歴の記録と管理
- ・保護すべき資料の判定と保存責任の所在の明示
- ・利用のための書誌情報や所在情報等の作成
- ・これらのことを「誰が行い、費用の負担はどうするのか」という問題

5. 保存資料の利用のシステム

(1) 学術情報システムと一次資料の保存

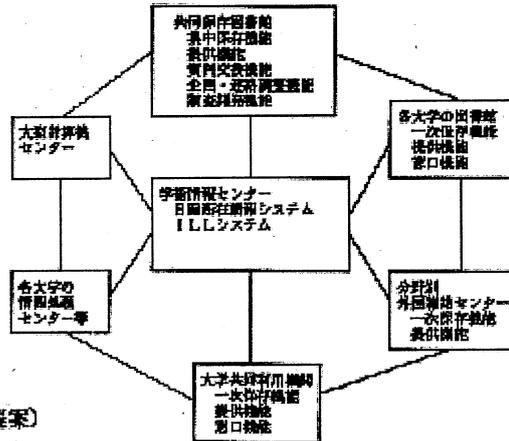


図8 学術情報システムにおける資料保存システムの構成（提案）

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

図3 学術情報システムにおける資料保存システムの構成（提案）

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

- (2) 分担収集・分担保存・相互貸借（ILL）と保存資料
- (3) 保存資料の情報検索・遡及入力
- (4) 資料・情報の流通 / 物流とオンラインのシステム

6. 保存システムとスペース・環境の計画

(1) 保存スペースの考え方

- ・利用と保存の考え方/保存スペースの成長への対応
- ・保存スペース/保存書架・保存書庫・保存図書館・共同保存図書館
- ・保存スペースの確保と開架書架スペースの適正規模の維持

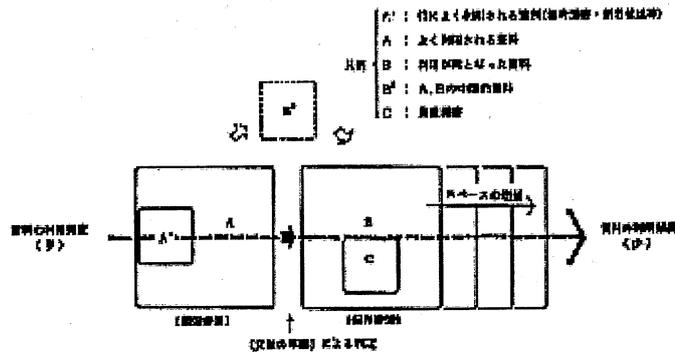


図4 資料の利用頻度に対応した収蔵システム

図4 資料の利用頻度に対応した収蔵システム

(2) 収蔵スペースの確保と資料の保全

- ・ 資料の量の合理的抑制 (廃棄、交換・寄託)、資料サイズの縮小 (マイクロ化、電子メディア化) による保存スペースの確保
- ・ 保存スペースの高密度化
- ・ 保存・保護のための環境
- ・ 保存のコスト

(3) 書架のタイプと収蔵効率

- ・ 一般書架 / 積層書庫 / 集密書架
- ・ 自動化 (立体自動書庫) の導入

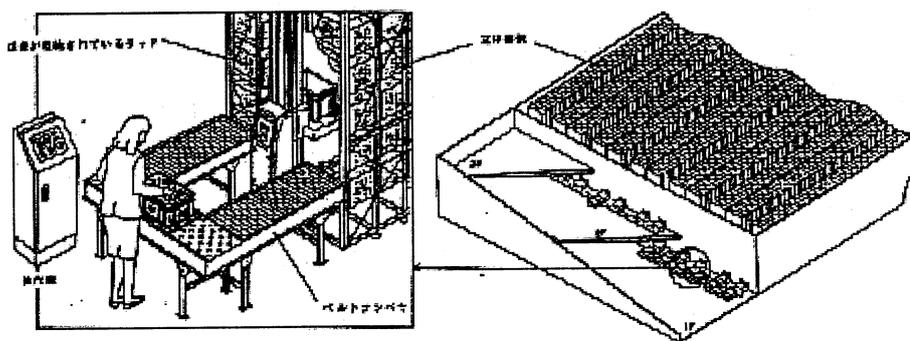


図5 自動書庫のイメージ

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

図5 自動書庫のイメージ

保存図書館に関する調査研究報告書/平成6年3月・国立大学図書館協議会・保存図書館に関する調査研究班より

(4) 保存書庫の安全性

- ・防火/防水/地震（倒壊・落下）/遮光/防虫/防塵/忘失
- ・法規的な問題（建築基準法・消防法 etc、人の安全性/資料の保護）

(5) 保存書庫の環境

- ・書庫内資料の利用方法と環境（本のための環境・人のための環境）
- ・温・湿度条件等

7. 共同保存図書館の可能性

- (1) 保存スペースの共有化 / 保存資料の集中収集と良好な環境での保存
- (2) 劣化対策の共同化 / 劣化対策の技術開発・集中処理・電子媒体化
- (3) 利用のための共同化と有効利用 / 資料情報の書誌情報・所在情報の作成・提供、保存資料の検索・参考業務、資料情報の提供、資料の交換・移管および仲介
- (4) 運用・業務の効率化
- (5) 共同保存図書館の設置 / 地域別・館種別・資料種別・分類別
- (6) 共同保存の段階 / 分担収集・保存 → 共同保存図書館